

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 和敬会	代表者	太田 一平	法人・事業所の特徴	『おだやかな“生きる”を支えたい』を理念として、生活の拠点となる在宅での生活を支えるべく本人様の生活環境やご家族、介護者の方の要望に応じたサービス提供に努めています。
事業所名	小規模多機能型事業所 なごみの郷	管理者	伊藤 紘二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	1人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	連絡の不備がない様、報連相の徹底に改めて努める。常からの状況確認に努め、急な依頼にも応えていけるようにしたい。	連絡ノートを活用し、情報の共有や徹底を図っている。急な依頼にも各スタッフが状況を把握し対応できている。	書面評価での実施のためなし。	連絡、情報の共有が確実とはいえない。口頭での確認も必要。急な依頼等にも対応できるよう改め徹底を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症も含め環境整備による日ごろからの対策に努める。スタッフ自身の言動も環境の一部と捉え意識を高める。	感染症に対しての意識はコロナの影響もあり高く意識できていると思われる。予防策には再度徹底と意識づけを行う。	書面評価での実施のためなし。	感染症の事を良く知り感染経路等についての知識を得る。認知症の方に対しての関わりについてもよく考えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域との情報交換、共有に努め、求められる事業所の形を模索していけるように努めていきたい。	対面での交流が難しい環境にあるが、書面等関わる方法を見出していきたい。	書面評価での実施のためなし。	地域との交流が積極的に行えるようになった時に積極的に発信できるように準備をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今後も地域との関係強化に努め、相談や依頼に対しては協力、支援できるように努めていきたい。	地域との積極的な関係強化は難しく出来ていないが、情報の発信はしていきたい。	書面評価での実施のためなし。	地域とのつながりを大切にして、お互いに相談や協力していけるような関係づくりに努めていきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に出席できるようにしていき、事業所としての関りや情報交換を密にしていきたい。	運営推進会議の開催時に出席し、現状や地域の様子、困りごとにも積極的に関わっていきたい。	書面評価での実施のためなし。	運営推進会議にて地域の現状を確認し、地域に求められる事業所を目指していく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害においては、いついかなる時にも協力できるよう体制の構築と地域との関係性に努めていく。	地域との防災意識の確認が充分には取れていないが協力体制は整えていきたい。	書面評価での実施のためなし。	防災の体制を把握し、地域の中での役割もしっかりと確認し、推進会議等で確認をしていく。